

第5章 施設計画

5.1. 整備方針

5.1.1. エリア構成・各エリアの考え方

「基本方針」や「主な機能の方向性」を踏まえ、施設全体の基本的な構成は、以下の4つのエリアを想定しています。

なお、施設全体として、基本方針4-1の主な機能の方向性で示すように、「時代を超えて評価される内外観」、「居心地がよく・快適な空間」とするとともに、「自然条件に適応した環境性能」「ユニバーサルデザイン等」「災害時の安全確保・周辺環境への配慮」「環境負荷が少ない」「維持管理の経済性」「利用者も使いやすく、職員も働きやすい動線」など、基本的な環境・性能を確保します。

[閲覧エリア]

一般閲覧スペース

適度な会話が可能であるとともに、様々な種類の座席を組み合わせ、利用者に提供します。また、各種メディアの情報を複合的に提供するとともに、来館者が容易に図書を探せる・図書に出会えるように低層や高層の書架の組み合わせや配置に工夫を凝らします。〔基本方針1-1〕

児童コーナー

各種メディアを活用した親子が楽しめる機能を備え、子どもやその保護者も快適に過ごせる施設・設備等とします（例.児童コーナーと子育てコーナーの一体的な配置、おはなしの部屋、読書ふれあい空間、子ども用トイレ・授乳室等）。〔基本方針1-1〕

石川コレクション(仮称)コーナー

新図書館を特徴づける石川コレクション(仮称)にふさわしい専用のコーナーを設け、各種メディアの情報を一体的に得ることが出来るような工夫をします（例.伝統工芸品の実物展示、里山里海の映像等の放映等）。〔基本方針2-1〕

石川に関する情報のコーナー

新たに公文書館の機能を備え、貴重な歴史・郷土資料等と公文書のワンストップサービスを整えます(例.同じ場所での閲覧・レファレンス/同一の検索システム)。

研究者のみならず、より多くの人々の利用や理解につながるような情報提供の在り方を検討します。

開架や展示スペースを充実するとともに、図書・資料等を利用しやすいよう、グループでの調べものや、大型の資料を広げられるような工夫をします。〔基本方針2-2〕

[知と情報のひろば、情報のアトリエのエリア]

屋内広場、多目的ホール、交流ルーム等

屋外空間と一体的な利用ができる屋内広場、多目的ホール、交流ルーム(研修室)、映像資料の上映会も可能なスペースといった多様な空間を設けます。

様々な活動が来館者の目に入り興味が生まれ、フレキシブルな利用ができる空間とします(例.可動式の間仕切りや照明の設置等)。

来館時の憩いや語り等の場として飲食できる場(カフェ等)を設けます。[基本方針 1-2]

学びの活動スペース

適度な会話が可能な通常の閲覧席とは別に、集中した読書・勉強・研究等を行う静寂を保った部屋や、会話しながら活用できるグループ活動室等、利用形態に合わせた機能・空間を設けます。[基本方針 3-2]

創造の活動スペース

自由な創造活動を支援するため、オーサリング(編集)やデジタルファブリケーション(制作)のための機能・空間(例.3Dプリンター等)を設けます。[基本方針 3-2]

[書庫エリア]

集密書庫等により高い収蔵能力を確保するとともに、また、図書の利用頻度も考慮して、自動化書庫や公開書庫を活用する等、来館者が図書等に容易に短時間でアクセスできる環境を整えます。[基本方針 1-1]

石川に関する図書・資料等を後世に継承するため、保存のためのデジタル化や補修の在り方等の検討、必要書庫・設備を導入します。[基本方針 2-2]

書庫についても長期にわたって資料を保存・管理できるよう書庫エリアを十分に確保します。[基本方針 4-2]

※書庫の構成(書庫のタイプ)は、設計作業において検討します。

[事務管理・共用部エリア]

事務室・作業室・倉庫等

廊下・階段・機械室等

職員も働きやすい動線となるよう工夫します。[基本方針 4-1]

5.2. 収蔵能力

5.2.1. 開架冊数の設定

図書の開架に関しては、「主な機能の方向性」で、以下のように示しています。

〔基本方針 1-1〕

- ・ 県民の多様なニーズに応えるため、図書・雑誌・資料やデータベース、デジタル化した資料、視聴覚資料、実物等を幅広く収集・提供します。
- ・ 児童コーナーの図書等を充実します。

〔基本方針 2-1〕

- ・ 伝統文化および里山里海の生物文化多様性に関し、過去から現在まで、官民、形態（例.友禅の小紋、下絵集、写真集等）を問わず、県内外から広く図書・資料等を収集し、全国でも突出した「石川コレクション(仮称)」の形成を図ります。

〔基本方針 4-2〕

- ・ 開架図書を充実させます。

上記の方向性を踏まえ、閲覧エリアにおける開架冊数を「**約 30 万冊**」と設定します。

〔参考〕

- ・ 現在の県立図書館の開架冊数 10.6 万冊
- ・ 過去 20 年間に新規に開館した都道府県立図書館(6 館)の開架冊数
岡山約 30 万冊、福井約 30 万冊、宮城約 30 万冊、奈良約 25 万冊、
岩手約 16 万冊、山梨約 15 万冊

5.2.2. 書庫の収蔵能力の設定

書庫に関しての「主な機能の方向性」は、「書庫エリア」の記載部分で示しております。また、現在(平成 28 年 3 月時点)、蔵書約 81 万 6 千冊のうち、閉架書庫には、約 70 万冊を所蔵しています。他方で、平成 27 年度の購入図書は約 1 万 2 千冊ですが、石川コレクション(仮称)をはじめとした幅広い図書・資料等を収集することに加えて、新たに公文書館機能も備えることから、開館後 50 年程度先の図書・資料等の収集を見据え、書庫エリアの収蔵能力を「**約 200 万冊**」と設定します。

〔参考〕

- ・ 現在の県立図書館の書庫の収蔵能力 約 75 万冊
- ・ 過去 20 年間に新規に開館した都道府県立図書館(6 館)の書庫の収蔵能力
岡山約 200 万冊、福井約 160 万冊(公文書含む)、岩手約 140 万冊、
宮城約 120 万冊、奈良約 100 万冊(公文書含む)、山梨約 100 万冊

5.3. 施設規模等

5.3.1 施設規模

これまで示してきた「主な機能の方向性」「収蔵能力」等を実現するための各エリアの概ねの規模を以下のように設定します。（具体的には、設計での作業を踏まえ決定します。）

エリア	内 容	規 模	主に関係する基本方針
閲覧エリア (開架約 30 万冊) (閲覧席数約 500 席)	<ul style="list-style-type: none"> ○一般閲覧スペース <ul style="list-style-type: none"> ・主な設備、利用環境等 <ul style="list-style-type: none"> -インターネット環境 -自動貸出機等、使いやすい図書検索、図書等の保護管理のためのシステム等 -県民参加型・共有型の「石川アーカイブ(仮称)」 -貴重書等を、多くの人の利用や理解につながるように情報提供 ○各種コーナー（児童、石川コレクション(仮称)、石川に関する情報、課題解決支援) ○その他、展示等のスペース 	5,000 m ² 程度 +展示等のスペース	1-1) 2-1) 2-2) 3-1) 4-1) 4-2)
知と情報のひろば、情報のアトリエのエリア	<ul style="list-style-type: none"> ○屋内広場、飲食できる場 ○多目的ホール、交流ルーム、映像資料の上映会も可能なスペース <ul style="list-style-type: none"> ・主な設備、利用環境等 <ul style="list-style-type: none"> -日常的なイベントの開催、県民の活動の舞台 -県民が抱えるライフステージ上の課題をテーマとした講座等や相談会の開催 -文化施設等の各種情報を、様々な方法で周知 ○学びの活動スペース、創造の活動スペース <ul style="list-style-type: none"> ・主な設備、利用環境等 <ul style="list-style-type: none"> -集中した読書・勉学・研究等を行う静寂な部屋や、会話しながら活用するグループ活動室等 -オーサリング(編集)やデジタルファブリケーション(制作)のための機能・空間 	2,000 m ² 程度	1-2) 3-2) 4-1)
書庫エリア (約 200 万冊収蔵)	<ul style="list-style-type: none"> ○一般書庫 <ul style="list-style-type: none"> ・集密書庫等により高い収蔵能力を確保（書庫の構成は、設計作業において検討） ○貴重書庫・資料保管庫・公文書等の一時保管庫 	5,000 m ² 以内	1-1) 2-2) 4-1) 4-2)
事務管理・共用部エリア	<ul style="list-style-type: none"> ○事務室・作業室・倉庫等 ○廊下・階段・機械室等 		4-1) 4-2)
合 計		19,000 m ² 程度	

※「閲覧エリア」と「知と情報のひろば、情報のアトリエのエリア」との関係については、第3章 3.5.利用者視点での図書館での活動(アクティビティ)イメージを参照

5.3.2 敷地利用

敷地利用に関して、「主な機能の方向性」では、以下のように示しています。

- ・来館者の憩いの場となる緑地を設け、館内からも石川の四季の移ろいを感じることができると。また、文化活動・交流を生み出すような屋外空間の活用を検討します。
- ・全県からのアクセスに対応して広い駐車場を整備し、公共交通(バス)やその他交通手段で来館される利用者にも配慮した施設とします。[基本方針 4-1]

上記の方向性を踏まえ、駐車場等の概ねの規模を以下のように設定します。

- ・駐車場約 400 台（一部は、広場としての利用も可能となるよう、舗装等の工夫を検討します。）
- ・その他の緑地、車両の停車スペース(例.ロータリー)、駐輪場などの機能の規模等は、設計の作業において検討します。

[参考] 現県立図書館の規模等との比較

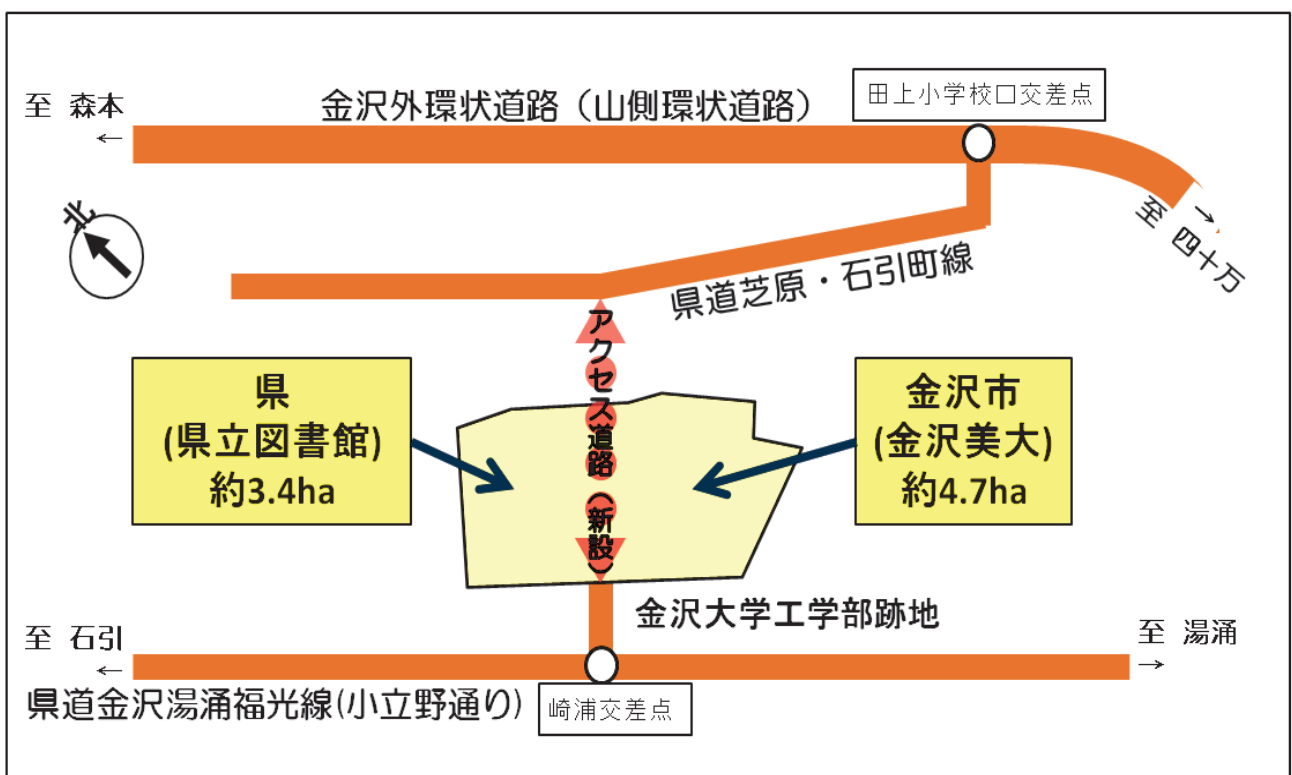
	新県立図書館	現県立図書館
延床面積	19,000 m ² 程度	8,461 m ²
開架冊数	約 30 万冊	約 10.6 万冊
閲覧席数	約 500 席	73 席
書庫(収蔵能力)	約 200 万冊	約 75 万冊
駐車台数	約 400 台	32 台

5.4. 移転予定地（金沢大学工学部跡地）の状況

5.4.1. 概要

移転予定地である金沢大学工学部跡地の概要は以下の通りです。

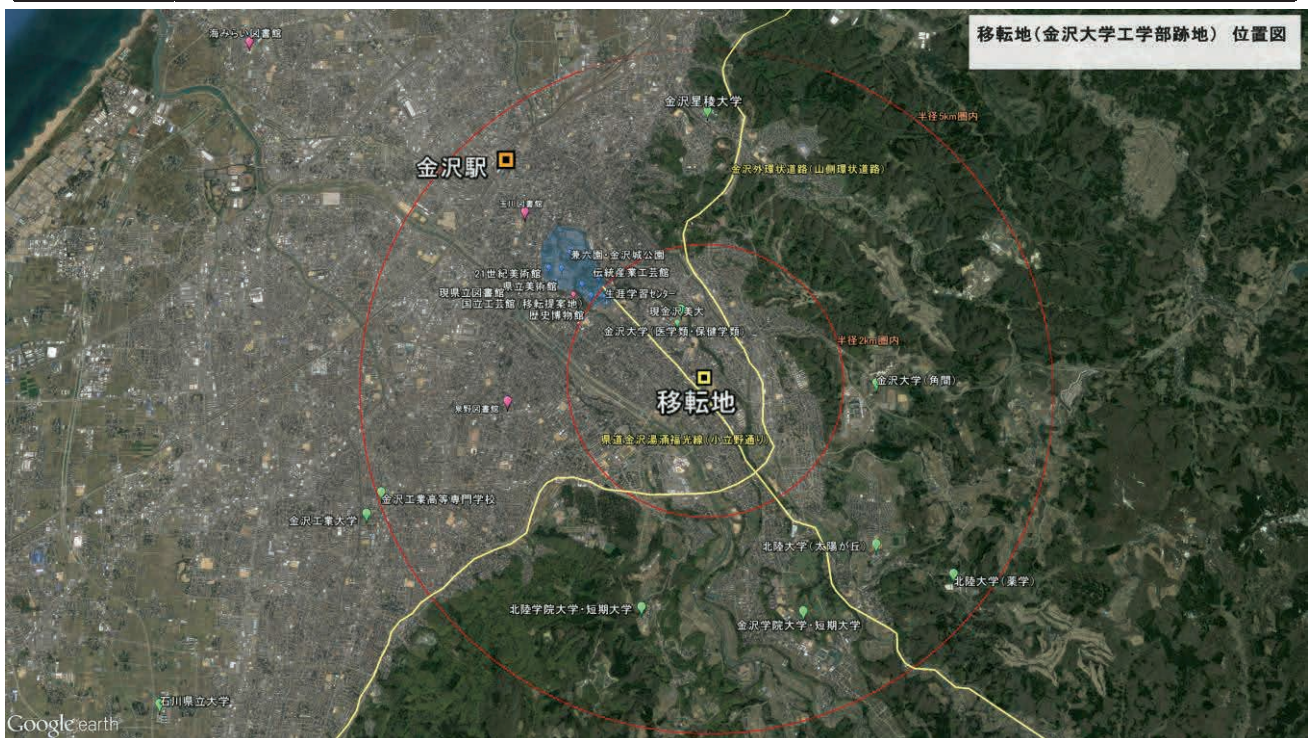
所在地	金沢市小立野 2 丁目 933
面積	83,902 m ²
位置	別紙のとおり
土地利用の経緯	<p>大正 9 年 金沢高等工業学校(金沢大学工学部の前身)が開校</p> <p>昭和 19 年 金沢工業専門学校に改称</p> <p>昭和 24 年 金沢大学工学部となる</p> <p>平成 16 年 角間キャンパスへの移転開始</p> <p>平成 19 年 角間キャンパスへの移転完了</p> <p>平成 23 年 金沢大学工学部跡地利活用検討委員会とりまとめ 「文教地区に相応しい公共が関わるべき利活用を図るべき」、「山側環状からの工学部跡地へのアクセス改善に向けた方策を検討すべき」 <金沢大学が建物撤去等実施(平成 26 年 3 月～平成 28 年 1 月)></p> <p>平成 26 年 金沢市が重点戦略計画を策定 (金沢美術工芸大学の工学部跡地への移転を検討)</p> <p>平成 28 年 県が長期構想を策定 (県立図書館を工学部跡地に移転・建替)</p>
建設予定地について	<ul style="list-style-type: none"> 工学部跡地内を通り、小立野通りと山側環状を結ぶアクセス道路を整備 県は道路北側 (約 3.4ha)、金沢市は道路南側 (約 4.7ha) を取得予定



5.4.2. 周辺の状況・アクセス等

移転予定地周辺の状況・アクセス等は以下の通りです。県内全域から良好なアクセスが期待できます。

住 宅	工学部跡地周辺は住宅用地が多く、田上地区では近年、住宅地が形成され、人口も増加中
文化歴史・ 自然	<ul style="list-style-type: none"> ・兼六園周辺文化の森(美術館や博物館など)の所在する地域に隣接する地域 ・前田家に縁のある天徳院など小立野寺院群が近隣に存在 ・風致地区に囲まれており、辰巳用水が隣接
施設等	<p><文教関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺には、小学校、中学校、高校、金沢美大、金沢大学(宝町、鶴間キャンパス)等がある ・半径 5km 程度の山側環状周辺に、金沢大学(角間キャンパス)、金沢工業大学、金沢星稜大学、北陸大学、金沢学院大学、北陸学院大学をはじめとする高等教育機関が立地 <p><商業関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ・金沢湯涌福光線(小立野通り)に商業施設が立地するほか、山側環状線沿いには大型 S C、ホームセンター等が立地 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療施設：金沢大学附属病院、金沢医療センターが小立野通りに立地 ・子ども交流センター(プラネタリアム)が犀川対岸に立地
アクセス	<p><車></p> <ul style="list-style-type: none"> ・山側環状道路…能登方面はのと里山海道白尾 I C、加賀方面は加賀産業開発道路と接続 ・小立野通り…金沢市中心部からのアクセス <p><公共交通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・金沢駅から約 20 分～30 分(バス)日中 1 時間に約 4～5 本 ・中心市街地(香林坊)から 15 分程度(バス)日中 1 時間に約 2～4 本



第6章 整備スケジュール

新県立図書館の整備については、平成29年度に基本設計に着手し、その後、実施設計、工事という段階を経て進めていきます。

建物の工期等の具体的なスケジュールは、設計の作業において検討しますが、現段階では、新図書館の建物の設計から完成までには、概ね5年程度を見込んでおります。

H29年度	基本設計
H30年度	実施設計
H31～ 3年程度	工事・移転等

上記整備と並行して、ソフト面の整備（幅広い蔵書構成を目指した図書等の計画的な収集、多様な人材の拡充、職員の各種能力向上に資する研修、大学等との分野毎の連携関係の構築、その他新たなサービスの準備など）を進めていきます。